

第 264 回月例情報市場

2026.1.21 ふれあい福祉センター4階会議室

活動紹介

情報市場の第 264 回会議が開催され、多様な参加者が集まり、各自の活動報告と情報共有が行われました。

司会は会長代理として理事西沢さんが進行されました。

セカンドばたん吉田さんから最近の制服事情について報告がありました。物価高の影響で体操着の素材が変更され、ポリエステル 100% の薄い生地になったことで、保護者から「寒くて透けて見える」「洗濯すると臭いがつく」との声が寄せられている。夏冬一式 3 万円 学生服 3 万円超える。保護者の経済的負担が深刻化。東急ライフの閉店により、制服ボタンなどの購入できるところがなく問い合わせもある。

情報発信の課題について、LINE は既存フォロワーにしか届かず、Instagram は頻繁な投稿が必要だが過度になると嫌がられるジレンマがあるそうです。市民新聞への掲載や銀行 ATM でのチラシ設置なども検討されたが、許可や費用の問題で実現が困難な状況。

理事高沢さんから福祉自動車（高齢者の送迎サービス）の運営課題について報告されました。現在 4 人のメンバーで運営しているが、道路が狭く大型車での運転が困難で、2 ヶ月間活動を停止している。福祉関連の活動における人材確保の困難さや、社会福祉協議会や住民自治協議会との連携不足についても言及されました。シニア大でも人材育成してほしい。

部活動の地域移行に伴う送迎問題が新たな課題として浮上しています。5 時や 6 時開始の部活動で、働く保護者が送迎できないため部活動を諦める子供がいるようです。この問題に対し、住民自治協議会と保護者の Win-Win の関係構築による解決策が提案されました。

部活の地域移行で、子どもの送迎問題もあり、働く親御さんも困っている。社協、住民自治協と連携して子どもや高齢者の送迎を対応してはとの提案がありました。みらいハッケンを送迎に使えるようにするとか、福祉車両の構図を変えないと！ 部活という居場所がなくなっていく。

倉石から長野市災害ボランティア委員会で1月31日に地震編の模擬情報共有会議を開催を告知。委員会主催、長野市、市社会福祉協議会共催で開催します。NGO 結の前原トムさんと JV0AD の明城事務局長を講師に迎え、災害時の支援調整について訓練を行われます。

西澤さんからいもい農場の12年間の活動総括と今後の方向性について報告がありました。楽しいだけでは人が集まりにくく、運営スタッフの負担が過大になっている現状を受け、信州大学のさくら先生による講演会を通じて活動の専門的分析と新しいモデルの検討を行う予定です。新たに学生1名と保護者1名が運営スタッフとして加わりました。

【募集情報】

●セカンドぼたん

古牧地区で倉庫もしくは事務所

無料もしくは安価で借りられる場所が欲しい、駐車場4~5台

次回の情報市場は、

2月18日（水）16時～17時　ふれあい福祉センター4階和室
お待ちしています！